

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	①-17	実施計画番号	116	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	農業後継者育成対策事業			事業終了年度	
担当課名	農業委員会			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	農業の次代の担い手である農業後継者の育成対策として、平成26年4月に市及び農協、農業共済組合、県民局等の関係機関で構成する「十和田市農業後継者対策協議会」を設立し、独身農業者の結婚支援を行うこととした。				
事務事業の目的	農業体験交流会等の開催を通じた出会いの場創出による次代を担う農業後継者の結婚支援を通じ、農業経営の安定及び発展を促す。				
実施状況	協議会のもとに「十和田市農業後継者結婚対策実行委員会」を設置し、体験交流会等開催の企画・運営を行っている。平成26年度は2回の交流会を実施し、平成27年7月25日に交流会第3弾となる「ブルーベリー交流会」を開催した。(参加者数18人、(女性9人、男性9人)、カップル成立数3組) (「農業後継者対策協議会」と「結婚対策実行委員会」の事務局は、農業委員会で行っている。)				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	2,160	2,160	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	250	250	250

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		農業体験交流会開催数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	2	2	2
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		農業体験交流会参加者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	40	50	40
				29	29	
			達成度(%)	73%	58%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<b>存在意義の見直しの余地</b> 0 / 4 農業後継者は、他業種と比べて日常生活の中で異性と出会う機会が極端に少ないため、農業後継者にしほって取り組むため。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<b>成果向上の余地</b> 1 / 6 ・他の団体で、女性が集まらずに開催中止となっているイベントがある中、企画内容の工夫、ラジオ等も活用した情報活動により参加者が集まり、婚活イベントを継続出来ている。 ・婚活イベントの企画内容を趣向を凝らした新しい企画の検討が必要。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	<b>コスト削減の余地</b> 1 / 6 ・市の総合戦略の少子化対策と連携しながら取り組む必要がある。 ・構成団体となっている、施設の使用料の減免活用。 ・あおもり出合いサポートセンターと連携。 ※青森県から委託を受けた社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団が設置した組織	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<b>受益者負担適正化の余地</b> 0 / 4 ・参加者の参加費は、男女同額としている。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 <b>18</b> 点です。 250	当該事業の改善の余地は20点中 <b>2</b> 点です。 250 ##
---------------------------------------	---

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要	<b>有効性を改善して継続</b>
-------------------------------------	-------------------

**方向性の理由** ※事業終了年度がH27の場合は回答不要  
 農業者に限定した交流会ということから、開催の都度、参加してみたいという魅力のある企画・内容が求められる。毎回の企画・運営を工夫し、参加者数を一定程度確保しつつカップリングに結びつけていくことにより、事業の成果の安定性を図っていく。

**今後の具体的な取組方策と狙う効果** ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。  
 交流会開催の実施組織となる実行委員会での企画・立案段階で、農業関係以外の分野の意見も取り入れながら、参加意欲をかきたてるような内容の検討をしていく。特に女性の参加者が増えることで、カップリング数の増加につながり、その後のフォローアップにより最終的に結婚に至ることをねらいとする。